

JOURNAL

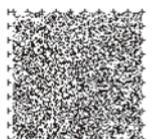
昔も
今も
問題は
同じ!?

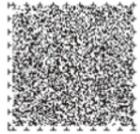


【2014年制作啓発パネル】

特集 ジェンダーを考える

～無意識の偏見や思い込みに気づく～





特

集

ジェンダーを考える



～無意識の偏見や思い込みに気づく～

「アンコンシャス・バイアス」このことは、ご存じですか？

アンコンシャス・バイアスとは、日本語で「無意識の偏見や思い込み」などと表現され、これまでの経験や聞きしてきたことなどから生み出されています。

その中でも性別に関する先入観や固定概念はジェンダーバイアスと呼ばれ、固定的な性別役割分担意識を助長する思い込みの一つで、男女共同参画を推進する上での障壁になっているといわれています。これまでの取組により、固定的な性別役割分担意識や女性の地位向上に一定の改善の兆候は感じられるものの、依然として不平等感が根強く残っているなど、社会全体が男女平等に向けて大きく進んでいるとは言えない状況です。



思い込んでいませんか！



次の職業について、どのような人を思い浮かべますか？

パイロット



医師



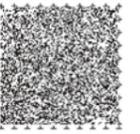
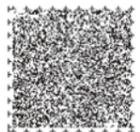
看護師



「子育てをしている人」といえば、
どのような人を想像しますか？



性別や学歴、世代などの属性に対する先入観や固定概念によって「型にはめて」決めつけていませんか？



誰もが持っている無意識の偏見や思い込み

「アンコンシャス・バイアス」は無意識に私たちの行動や判断に影響を及ぼすものですが、誰もが持っており、完全になくすことは難しいと言われています。あなたが無意識にした行動や判断が、時には周りの人を困らせていることがあるかもしれません。

学校・家庭・職場などで、こんな言葉を聞いたことはありませんか？

男性は理系（数学・理科）が得意で、女性には理系が苦手（文系が得意）

男性は運動が得意で、女性には運動が苦手

我が社の経営方針を発表します。

どんな人が喋っていると思いますか？

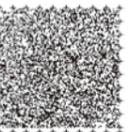
無意識の偏見や思い込みを解消するためにできること

アンコンシャス・バイアスは、相手に対するものもあれば、自分自身に対するものもあります。無意識がゆえに気づきにくく、本能でもあるため完全になくすことはできませんが、このことに気づこうと意識することで、モノの見方や、とらえ方が変わったり、一歩踏み出してみようという勇気ももてたりと変化がおとずれます。

「普通はこうだ」「こうあるべきだ」などの決めつけの言葉や押しつけの言葉は、アンコンシャス・バイアスに気づくヒントとなるかもしれません。

一人ひとりがその時々と向かい合うことを大切にしていきましょう。

一人ひとりを尊重し
誰もが活躍できる社会に！！



地域でこんなことありませんか？

北野校区で、自治会、PTA、民生委員などが参加して、福岡県が作成したアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見や思い込み）の動画を視聴し学習会を行いました。

▶PTAの役員会でのシーンでは…

男性の会長から「次の会長は〇〇さんで」と言われて断る女性や、「PTAの仕事は母親の仕事でしょ」と発言する女性の姿がありました。

▶自治会で敬老会の話し合いをするシーンでは…

男性と同じ役員メンバーですが、お茶出しをして、敬老会の役割をもらえず、勇気を出して発言した意見も聞き入れられなかった女性の姿がありました。

（出典：福岡県女性の活躍推進ポータルサイト「女性がリードするフクオカのミライ D&I and you」）

動画を視聴して、登場人物の言動の中に「これはおかしい」と感じたことについて、意見を出し合ってもらいました。他者の意見を聞いたり、対話したりすることで、自分では自覚していなかったものの見方や考え方に気づいたり、視野が広がったりすることもあります。

皆さんからは、女性自身が「PTA会長は女性には難しい」、「子どものことは母親の仕事」と決めつけていることがおかしいという意見が多く、地域では女性が後片付けなど補助的な役割があるという意見がありました。アンコンシャス・バイアス、特に「男らしさ、女らしさ」に関する思い込み（ジェンダー・バイアス）は、固定的な性別役割分担を生み出し、それが社会へと、そして、私たちの生きづらさにつながります。このように、私たちが、気づいていないうちに物事を判断しているこの「無意識の思い込み」が与える影響について、これを機会に一度皆さんで考えてみませんか。

男女共同参画の視点をもって、考えました

今回、北野校区では文化生涯学習部会が主催して、男女共同参画の視点をもって自治会活動を進めていくため、アンコンシャス・バイアスの存在について気づくことをねらいとした学習会が開催されました。最後に、松本秀樹部会長から「本日の気づきを大切にして、それぞれの自治会で共有してください」と振り返りの言葉が参加者の皆様に向けてありました。

北野校区まちづくり振興会の高尾忠男会長は、「性別に関係なく誰もが幸せな人生を送らないといけない。そのためにもこの活動は継続しなければならない。一緒にやっていきましょう」と力強い言葉で話されました。

知人の勧めで参加され積極的に発表された原口智嗣さんと曾我部憲さんは、「自分たちのような若い世代が次世代のために考えていかないといけないと思った」と意見を述べられました。



北野校区まちづくり
振興会の高尾忠男会長



原口 智嗣さん



曾我部 憲さん



文化生涯学習部会の
松本秀樹部会長

子育てに『思い込み』、ありませんか？

生まれてすぐ押し付けられる「女の子らしさ」、「男の子らしさ」への問題点

▶私たちが、良かれと思って相手に伝えた言葉や行動が、場合によっては、「決めつけ」や「押しつけ」になり、意図せずに相手を傷つけてしまうことがあります。子育ての中で、「男の子だから泣かないで」とか「女の子だからピンク色がいいよね」というような言葉を使っていませんか。深い意味はなく発せられた言葉でも、小さな頃から周りの大人からこのような言葉を言われてきた子どもは、「男の子はこうあるべきだ」「女の子だからこうしてはいけない」を当たり前と思うこととなります。

▶例えば、生まれてすぐに、周囲の大人は「女の子だからぬいぐるみがいいよね」「男の子だから乗り物のおもちゃがいいよね」のように、赤ちゃんの性別を一番の基準にして考えていることはありませんか。その後、幼稚園や保育園では、男の子、次に女の子と性別順に物事が行われることがあります。このような何気ない習慣から性別によって分かれることが、あたかも当たり前であるかのように子どもに刷り込まれてしまいます。将来、その子どもが親になり、その価値観がまた引き継がれるという「思い込み」の連鎖を断ち切るためにも、まずは、大人が自分の言動に意識を向けたいものです。

教育社会学と子どもの社会学が専門の福岡大学人文学部の藤田由美子教授は、講座の中で「子育ての中で周りの大人が心がけたいことは、ジェンダー・ステレオタイプ（性別に対する先入観や固定観念のこと）の見直しと多様なセクシュアリティの理解と尊重」と話され、その具体例を次のように挙げられました。

- 無意識のうちにジェンダー・ステレオタイプが含まれていないか、問い直す。
- 子どもや周りの大人のふるまいに、ステレオタイプにもとづく評価を行っていないか、問い直す。
- ステレオタイプの伝え方NG⇒伝え方のアップデートをしましょう。ありのままの姿を尊重する。

▶無意識の思い込みに意識を向けてみることは、周りの人や自分の選択肢を狭めることなく、一人ひとりが生き生きと活躍できる社会をつくる一歩につながります。決めつけないコミュニケーション、伝え方を意識しましょう。



「子育てのなかのジェンダー」
で講演する藤田由美子教授



★ デジタル性暴力について

「性暴力」と聞くと、同意なくプライベートゾーンを触る等、身体への直接的な暴力を思い浮かべる人が多いと思いますが、スマートフォンやSNSが生活の一部となった現在では、IT技術を悪用したデジタル性暴力が急速に広がっています。

データはコピー・保存・再投稿ができるため、消し去ることは容易ではありません。「家族や知人に見られてしまうのでは」等の不安や恐怖、自責感を抱いたり、先の見えない苦しみが続き、被害者がトラウマを抱えることも少なくありません。

★ デジタル性暴力とは

- ◆リベンジポルノ（私事性的画像記録の公表）：交際相手から振られたことへの逆恨みで、交際時の性的画像等をネット上に公開する。
- ◆セクストーション（性的脅迫）：性的画像等を送らせ、ゆすり、さらなる要求をする。
- ◆ディープフェイク：人工知能（AI）技術を使い、実在人物の顔を性的画像等に合成加工する。
- ◆性的画像の無断撮影・拡散（盗撮・転送）
- ◆オンラインハラスメント：SNS上で性的な誹謗中傷や卑猥なメッセージを送りつける 等があります。

相談室 だより

今回は、デジタル性暴力についてお伝えします。

● 性犯罪に関する法改正

2023年に刑法が改正され、新設された「不同意性交等罪」は性犯罪の核心が「暴行や脅迫の有無」ではなく「同意があったかどうか」であることを明確に示し、同時に、単にネット上のトラブル等と言われがちだったデジタル性暴力に対しても「性的姿勢撮影罪」が新設され、同意なく性的な写真を撮る・拡散する等の行為は性犯罪であると定義されました。

● 私たちが出来ること

被害者を孤立させない、傍観者にならない、安全な居場所をつくる等があります。もし、あなたやあなたの大切な人がデジタル性暴力で苦しんでいるならば、どうか一人で抱えないでください。あなたは悪くありません。あなたの尊厳と安全を取り戻すために相談室を利用されてみませんか。

♥ 暴力がない未来へ ～子どもたちと考える～

ジェンダーに基づくあらゆる暴力を容認しない社会とは、性差別や暴力、性別による固定的な役割分担などの要因となっているジェンダーを見直して、すべての人が個人としてその尊厳が重んじられ、あらゆる分野に参画し、責任を担い、平等に利益を受け取ることができる状態を言います。「女性に対する暴力をなくす運動」の期間に合わせ、いざという時に自分の身を守るための「理論と実践ワーク 女性のための護身術」講座を開催しました。女性や女兒であっても、加害者の隙について逃げるコツを学びました。



講師の橋本明子さん（左から3人目）と共催の民間団体の皆さんと一緒に。

大きな声を出してみたり、実際に逃げるまでの練習をしてみたりと、頭と体の両方を使いました。女子小学生の皆さんも、ご家族と一緒に楽しく参加されました。

参加者の田淵さんご家族と仲さんご家族からの感想：「手をつかまれた時の逃げ方をお友達にも教えてみたいと思いました」「『自分でできる対策を学ぶことが大切だね』と親子で向き合っている良い機会となりました」

久留米市 男女平等推進センター 女性のための 総合相談

あなたはひとりではありません
まず、電話してみませんか？

TEL 0942-30-7802
FAX 0942-30-7811

面接・電話相談
(面接は要予約)

月曜日・火曜日・水曜日
金曜日・土曜日
10時から18時
日曜日 10時から17時
木曜日 17時から20時
休み…月の末日・祝休日・年末年始

久留米市 男女平等推進センター 男性のための 電話相談

「男だから」弱音を吐かない、
強くなれば…と
思っていますか？

TEL 080-6787-6172
FAX 0942-30-7811

毎月第2・第4月曜日
16時30分から17時30分まで

開設日時など
詳細はこちら
予約もできます

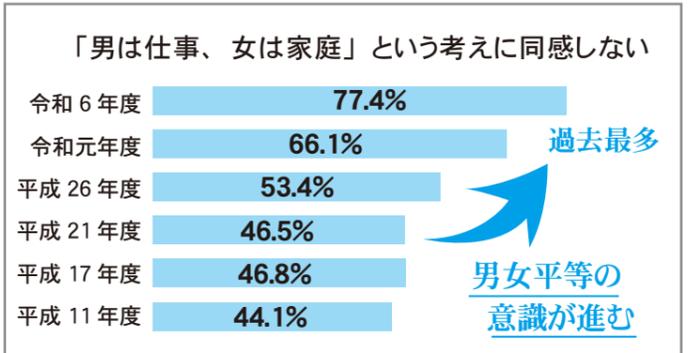


男女平等に関する市民意識調査の結果報告

市では、第5次久留米市男女共同参画行動計画の策定にあたり、市民の男女平等に関する意識と実態について把握し、施策検討の基礎資料として活用するため、令和6年度に「第9回久留米市男女平等に関する市民意識調査」を実施しました。

固定的な性別役割分担意識は薄れつつある

これまで、行動計画に基づき、男女平等推進センターを中心に講座等の開催や情報提供、市民の自主活動等を通じ、男女平等の意識づくりを進めてきた結果、今回の調査では、「男は仕事、女は家庭」に同感しない人の割合が過去最多となりました。性別による固定的な役割分担意識は薄れ、男女平等の意識は進んできていると言えます。

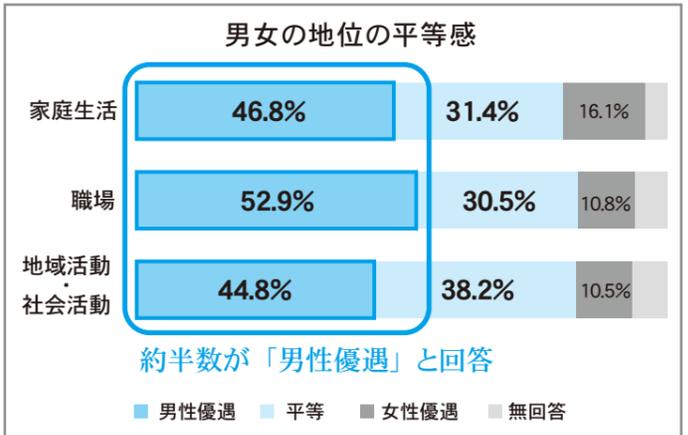


実態が意識に追いついていない

しかしながら、男女の地位の平等感については、「家庭生活」「職場」「地域活動・社会活動の場」で男女の地位が平等と感じている人の割合は3割代に留まり、男性の方が優遇されていると感じている人の割合が5割近くを占め、実態が意識に追いついていない状況となっています。

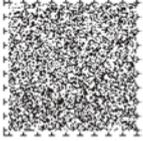
「男女共同参画社会」の実現をめざして

身近な生活の場において男女の不平等感が解消されない要因は、固定的な性別役割分担意識に基づく慣習や慣行、制度が根強く残っているためです。このような慣習等は長い時間をかけ社会的・文化的に形成されてきたものであるため、なくすことは容易ではありません。市民一人ひとりが、ジェンダー平等について理解し、認識を深め、主体的な行動につなげられるよう市全体で取組を進めていく必要があります。



【お問い合わせ先】

協働推進部男女平等政策課
TEL：0942-30-9044
FAX：0942-30-9703



BOOK GUIDE



図書情報ステーション

アンコンシャス・バイアス、デジタル性暴力についての理解が深まる本を紹介します。図書情報ステーションでは、図書、DVD、行政資料、雑誌、コミックなどの資料の閲覧、貸出ができます。詳しくは図書情報ステーションまでお尋ねください。



電話 0942-30-7801 FAX0942-30-7811



それって決めつけじゃない!?
アンコンシャス・バイアス
1巻 男子なら虫がさわられる!?
ほか

松島 恵利子/文
北村 英哉/監修
のほら あこ/マンガ・イラスト
汐文社 2024.7



「男子は虫が好きに決まってる」そんな決めつけが、誰かを、あるいは自分自身を傷つけているかもしれない。無意識の決めつけや思い込み=アンコンシャス・バイアスについて、身近な場面を通してわかりやすく解説する。



ポルノ被害の声を聞く
デジタル性暴力と #MeToo

ぱっぶす/編
岩波書店 2022.5



AV出演強要訴訟は、低年齢化・深刻化するポルノ被害の一端を明るみに出した。NPOに寄せられた被害者の声から性暴力の商品化の実態を掘り起こす。ネットを通じ世界規模の産業となっている性暴力の商品化に私たちはどう向き合うのか。

久留米市男女平等推進センター図書情報ステーションについて

久留米市男女平等推進センター図書情報ステーションは、男女共同参画社会実現のための資料を揃えた専門図書室です。性別にかかわらず誰もが自分らしく生きるためのヒントになる本・雑誌・DVD を幅広く取り揃えています。また、全国の男女共同参画の動きを知る情報誌・ミニコミ誌・行政資料など、久留米市の男女平等推進の拠点施設として情報を提供しています。



■開館時間

月曜日～土曜日
10:00～18:00
日曜日
10:00～17:00

■休館日

月の末日
第2・第4木曜日
国民の祝日・休日
年末年始
特別整理期間

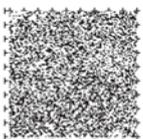
編集・発行

令和8年3月



久留米市 男女平等推進センター

〒830-0037
久留米市諏訪野町 1830-6 えーるピア久留米内
TEL 0942-30-7800
FAX 0942-30-7811
E-mail danjo-c@city.kurume.lg.jp



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



ホームページは
こちらから